

## 横浜市小学校生活科・総合的な学習の時間部会 7月

記録 本町小学校 永石 美紗子

### 〈ミニ研修〉

#### ○小単元構想について

- ・子ども自身が探究的に学んでいくために、子どもがどのような思考で活動をすすめていくのか、予測しながら構成していくことが大切。
- ・課題に子どもが気付くために、「探究の過程を経由する」ことを意識する。課題をもって子どもたちが自ら探究するために、活動の展開を細かく改善してみる。
  - ① 課題の設定
  - ② 情報の収集
  - ③ 整理・分析
  - ④ まとめ・表現※③の整理・分析が抜けがち。映像資料（写真やビデオ）でふり返ったり、報告し合ったりしながら整理・分析していく。
- ・探究の過程を繰り返していくことが大切。

どの過程においても、一人で悩みながら単元を構想するのではなく、職員室で声を上げながら同僚の先生と一緒に考えていくことが大切です。大岡小学校の職員室で構想していく様子を見せながら研修をしていただきました。

### 〈実践提案〉

単元名 **だれもが笑顔で！チャレンジアップ大作戦**

提案者 山内小学校 第4学年3組 小山 美苗先生

#### ○グループワーク

##### 【交流について】

- ・2回の交流を有意義なものにするために、事前に知識がある状態で交流する。
- ・会の打ち合わせや事前準備なども子どもが行うようにする。→探究につなげる。
- ・「〇〇で交流したい」という思いをもつ。  
→追及材にする。
- ・施設だけでなく、利用者等との交流を大切に。  
→思いに触れられるように
- ・限られた回数の中で交流を行うので、手紙等を通して交流を継続させていく。

##### 【子どもたちが主体的に探究するために】

- ・課題を明確にして交流する。
- ・子どもたちが「知りたい」という思いをもったときに交流のタイミング。そこから活動がスタートする。
- ・1回目の交流が受け身になってしまっている、そこから学んだことを2回目の交流に生かせるようにする。そのとき、子どもが学んだことや、知りたいことを中心に計画していくことが大切。
- ・自分の生活をふり返って、一人ひとりが困り感をもっていることが大切。

- ・となりの人に優しくできているか。
  - ・学年のみんなは笑顔だろうか。
- 最終的に立ち返られるようにする。

##### 【「かわいそう」という思いを変容させるために】

- ・「障がいがあっても明るい人だね。」に着目するのではなく、何らかの方法で補うことでふつうの生活ができることに着目させたい。
- ・自分がアイマスクや車いす等の体験をして障がい者の方の思いを知ることも大事だが、そこよりも、自分はその人たちのためにどんなことができるのか考えさせたい。

#### ○講師の先生より

- ・どうやったらいいか、みんなで考えていくことが大切。一人では気付かないことや思いつかないことが出てくる。みんなで単元構想をつくっていくことが大事。
- ・福祉は、理想に陥りがち。本音が出にくい。総合で大切なのは、自分がどう生きていくのか考えることが大切。そのために、いかに自分事として、必要感をもって活動させていくかがポイントになる。
- ・「本当かなあ。」と考えることが大事。そこで人と出会い、予想していたこととズレがあると、子どもの心は大きく揺さぶられ、「解決したい。」という思いが生まれる。探究していく中で、情報の収集や整理分析を繰り返していくことが大切。